

リハビリお役立ち情報 その6 『言語機能の老化～もしかして認知症』

今回は『言語機能の老化～もしかして認知症』について記載します。

脳卒中や他の病気で言語に影響を及ぼすような疾患がないにもかかわらず、最近話をする時に物の名前が出づらく、思い出すまで時間がかかり「あれ、それ」などの代名詞や、例えば「めがね」がうまく出てこないために「あれ、目が悪い人がかけるもの、何て言ったっけ？」などの言い回しを多く使ってしまうことはありませんか？不意に会った顔見知りの人の名前が思い出せないなど、年齢を重ねるにしたがい多くなってくると思います。

思い出せないと気になってしまい、気持ちが落ち着かなくなる方もいると思います。「もしかすると自分は認知症では？」「このまま記憶力が低下してしまうのでは？」などと不安を感じる方もいるかもしれません。物の名前が出てこないのは年齢を重ねると誰もが自覚する症状の一つです。

最も大事なはその言語症状が加齢によるものなのか？認知機能の低下によるものなのか？です。言語症状の他に下記の症状がある方は注意が必要です。

- 物忘れの自覚がない。
- 過去の旅行など、何らかのイベントの内容自体をすべて忘れている。
- 約束したこと自体を忘れてしまい、約束の内容を言われても思い出せない。
- 慣れた道なのに自宅までの帰り道を忘れてしまい、迷うことがある。
- 食事をしたこと自体を忘れてしまう。
- 新しいことを覚えられない。 など

脳卒中や他の病気で言語に影響を及ぼすような疾患がない方が対象ですが、認知症を早期発見するスクリーニング検査の1つに『言語^{りゅうちょうせい}流暢性課題』があります。動物や野菜などをできるだけたくさんあげるカテゴリー流暢性課題と、「か」や「し」など選択した仮名から始まる単語をできるだけたくさんあげる音韻流暢性課題があります。

1、カテゴリー流暢性課題

- 動物編：1分間に動物の名前をできるだけたくさん言ってください。4つ足でなくても構いません。
- 野菜編：1分間に野菜の名前をできるだけたくさん言ってください。

2、音韻流暢性課題

- 「か」から始まる言葉を1分間でできるだけたくさん言ってください。
- 「し」から始まる言葉を1分間でできるだけたくさん言ってください。

各項目の課題で1分間に10個以上（文献により1～3個の誤差はあります。）が正常といわれています。5個以下だと、とても少ない状態ですので、気になる方は主治医や専門医に相談してみてください。



監修：社会福祉法人 溪仁会
介護老人保健施設コミュニティホーム白石
リハビリテーション部
言語聴覚士 平村敬寛
E-mail hiramura-ta@keijinkai.or.jp